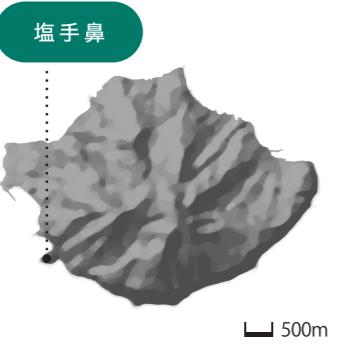




# 12



塩手鼻

片泊地区六〇代男性

## 思い出話

「ここは潮の流れも早く、岩礁の下がえぐれて海から登れないのでも、泳ぐとともに危険ですが、子供には魅力的な釣り場でした。」

塩手鼻はもともと釣り場として人気で、一九八二（昭和五十七）年に道ができる前は岩間を伝つて海辺Eまで降りて釣りをした。

火山から流出した厚みのある溶岩流は、ゆっくり冷え固まる」と体積が収縮して規則正しく柱状に割れる。柱は表面から溶岩の内側へ固まりながら伸びてゆくB。一般的には、時間をかけて冷えるほど太くなるというC。角柱の断面は六角形が多いが、四角形や五角形もあるD。そのため太さも断面形も多様な柱状節理を見ることができる。



片泊

塩手鼻

黒島は火山島である。残った島の形から、標高六二〇mの櫓岳付近を噴出の中心とする円錐状の火山だつたと推測される。岩石磁気測定や放射年代測定から、黒島の主な部分は第四紀更新世の八十万年前頃に噴出した可能性が高い。この年代は現生人類の登場前で、大陸では石器を使う原人が暮らしていた。